

日っ初ハ心

新春市長コラム



*利他の心=自分のことよりも他の人を大切に思うこと



秋田市長 ● 穂積 志(もとむ)

明けましておめでとうございます。本年がみなさまにとって、心穏やかに健やかな一年となることを心からお祈り申し上げます。

月うさぎに思う

コロナ禍の日常

今年卯年。幼い頃に「月で兎が餅つきをしている」と聞いて、見上げた月には杵を持った兎の姿が…。きつと多くのかたにも経験があるかと思えます。この月に暮らす兎の話は、利他の心を伝える仏教説話「天にのぼった月うさぎ」の伝説として諸国で語り継がれているそうです。兎にはどこか臆病な印象がありますが、感受性がとても豊かで、飼い主が落ち込んでいるとそっと寄り添ってくると思います。こうした

2023年 飛躍

“勇気を持って

挑戦しよう”

相手を思いやる優しさと穏やかで美しい心は、長くコロナ禍を過ごす我々の日常にこそ必要なのだと思います。

新たな気持ちで迎えた年始めの夜。透き通った空気を吸い込みながら、誠実に心優しい「月うさぎ」に思いをはせてみてはいかがでしょう。

ワールドカップの熱気と

若者の未来

昨年末のサッカーワールドカップ(W杯)カタール大会では、日本代表サムライブルーの激闘に日本中が大いに盛り上がりました。特に印象深いのは、グループリーグ第3戦のスペイン戦です。「三笥の1ミリ」と呼ばれた三笥薫選手の折り返しを、小学校時代からのチームメイト田中碧選手が押

し込み決勝ゴール。試合後の熱い抱擁シーンは友情と信頼の笑顔に溢れ、切磋琢磨しながら挑戦の日々を過ごしてきた二人に、心から「ブラボー！」の賛辞を送りたいと思います。

スポーツと言えば、秋田の高校生も負けてはいません。年末年始の高校スポーツの全国大会では毎年多くの感動をもたらしています。また、昨年は個人種目で素晴らしい活躍がありました。秋田商業高校3年の佐藤杏樹選手(レスリング)は、初めて参加した国際大会U17世界選手権で見事金メダルを獲得。秋田工業高校3年の大野聖登選手(陸上)は、秋田県勢としては実に43年ぶりにインターハイの2冠王者(800m、1千500m)に輝きました。また、秋田北高校1年の高橋凛選手(水泳)は、インターハイこそ僅差で表彰台を逃しましたが、レースのたびに秋田県の記録を更新している注目のスイマーです。

気心の知れた仲間と共に、秋田からトップをめざそうとする高校生たち。「秋田を盛り上げたい」という郷土への思いが頼もしく、応援にも熱が入ります。スポーツに限らず、若者たちが自らの将来に向かって挑戦できる土壌を作ることは我々大人の役割です。私は秋田市が「若者が未来を思い描けるまち」でありたいと思っています。このこ